

金剛院 イベントNEWS

●企画・発行/金剛院
●制作/クリプロ

～椎名町に沖縄の風が。「宮良多鶴子コンサート」～

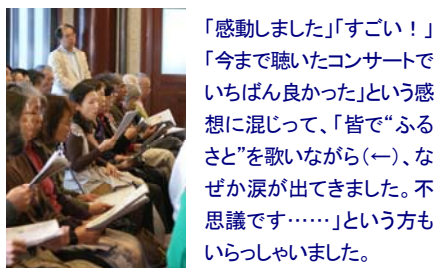
東ティモールからの研修生4名のサプライズ参加もあり、国際交流も。



外見からは想像もつかないほどの声量と、表現力豊かな歌で客席を魅了した宮良多鶴子さん。



歴史や伝統、そして「沖縄の心」をユーモアたっぷりの「ユンタク」で話す独特の語り口も魅力です。



「感動しました」「すごい！」「今まで聴いたコンサートでいちばん良かった」という感想に混じって、「皆で“ふるさと”を歌いながら(ー)、なぜか涙が出てきました。不思議です……」という方もいらっしゃいました。



去る11月6日、沖縄出身のソプラノ歌手・宮良多鶴子さんのコンサートが開かれました。

真紅のドレスに沖縄の伝統的な染物「紅型(びんがた)」のストール姿で登場、オープニングの「オ・ソレ・ミオ」が終わると、本堂いっばいに響き渡るその豊かな美声に、客席からは思わず(驚きの)ざわめきが起きました。

第1部では、得意のカンツォーネや沖縄民謡、「沖縄のフォスター」と呼ばれ宮良さんの一族でもある作曲家・宮良長包(ちょうほう)の代表作「えんどうの花」など7曲が披露されました。

また、曲のあいだには宮良さんの「ユンタク(おしゃべり)」が笑いを誘い、コンサートはなごやかに、リラックスした雰囲気で行進んでいきました。



第2部は一転して近年コンサートを通じて宮良さんが熱心に子どもたちの支援に取り組んでいる「東ティモール」の民族衣装

「タイス」に着替えて登場。第2部では5曲が披露され、最後の「コン・テ・パルティロ(君と旅立とう)」が高らかに歌い上げられると、客席からは「ブラボー！」の声と大きな拍手が。アンコールは沖縄の踊り「カチャーシー」に乗っての「島唄」です。客席と一体になった熱いステージに、大きな拍手がいつまでも鳴り止みませんでした。



(↑)芭蕉布を使ったライト、南国をイメージしたたくさんさんの花でステージは沖縄の雰囲気満点。(↓)休憩時には沖縄の特産品販売コーナーも大盛況。廊下には東ティモールの子どもたちの絵が。募金もたくさん集まりました。



(上)4名の学生さんと歌うというサプライズも。(下)客席に下りて「カチャーシー」を披露。

★宮良さんのステージ、いかがでしたでしょうか。コンサート後に宮良さんからこんなメッセージを頂きました。「今日は歌いながら、ご本堂には何か“生命”を感じていました。その生命に大きく包まれ、歌と会場の皆様のお気持ちが融合して、何とも言えない幸せな気持ちでした。研修生たちにも優しいお言葉をかけて頂き、彼らもとても喜んでいました。本当にありがとうございました。お寺の本堂という場で、宮良さんの歌と皆さんの心がひとつになった、すてきな1日でしたね。(住職記)